

第46回長久手市地域公共交通会議 議事録要旨

議 事 概 要	
会議の名称	第46回長久手市地域公共交通会議
開催日時	平成30年12月17日(月) 午後2時～午後4時30分
開催場所	長久手市西庁舎3階 研修室
出席者氏名	<p>15名中12名出席(五十音順)</p> <p>会長 松本 幸正 委員 天野 力 委員 今井 純志 委員 加藤 正純 委員 古賀 めぐみ 委員 小林 裕之 委員 佐藤 幸太 委員 高臣 綾子(代理出席) 委員 中根 卓矢(代理出席) 委員 二輪 昭宏 委員 矢野 正彦 委員 吉岡 実</p> <p>説明員</p> <p>(N-バス事業者) 安心安全課長 南谷 学 同課長補佐 山際 裕行</p> <p>(定額乗合タクシー事業者)</p> <p>長寿課長 出口 史朗 同課長補佐 粕谷 庸介</p> <p>(事務局) 経営企画課長 日比野 裕行 同課長補佐 森 延光 同主事 戸田 敬志</p>
欠席者氏名	委員 松本 幸次、高嶋 隆明、田中 直子
傍聴者人数	4名
会議の公開・非公開	公 開
審議の概要	<p>1 議 題</p> <p>(1) 第2次長久手市地域公共交通網形成計画(案)について (2) 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価(1次評価)について (3) N-バスダイヤ改正について</p> <p>2 報 告</p> <p>(1) 定額乗合タクシー実証実験結果について (2) 公共交通応援隊活動報告について</p> <p>3 その他</p>

<裏面へ>

1 議 事

1 議 題

(1) 第2次長久手市地域公共交通網形成計画(案)について

(資料1-1及び資料1-2に基づき事務局より説明)

会長

これまで会議で協議を行ってきた次期網形成計画について、全体(案)を提示いただいた。今回の会議の内容を踏まえ、パブリックコメントを実施する。最後まで完成度を高めていきたい。内容について意見等は無いか。

委員

19頁の(2)福祉有償運送の、①使用できる自動車の種類と運送の対象のうち、2)について、誰を対象にしているのかわかりにくい。

会長

対象者が重複して記載されているように感じる。記載を確認するように。

事務局

内容については、再度確認し記載を変更する。

委員

43頁の図8-1「公共交通ネットワークの将来像のイメージ」において、研究施設とは、どこのことを指しているのか。

事務局

農業総合試験場のことを指している。

会長

公園は緑、研究施設は紫の網掛けがかかっている。これは何を指しているのか。

事務局

この網掛けについては、特に明確な区分をしておらず、公共交通でカバーしない範囲を指している。

会長

わかるように注釈等を記載すること。

委員

「公共交通ネットワークの将来像のイメージ」において、福祉の家から愛知医科大学病院までを市内幹線（Nーバス中央循環線）で繋ぐとしている。現状、この路線は北部線しか走っていない。今後運行する予定があるのか。

事務局

将来像のイメージとして記載しているが、愛知医科大学病院と福祉の家はニーズの高い施設であり、将来的には運行させたいと考えている。

委員

13頁リニモの説明の中で、他の路線バスとの比較が記載されているが、必要無いのでは。

事務局

記載を削除する。

委員

53頁「計画の達成状況の評価に関する事項」について、PDCAサイクルを構築し計画事業を推進していくとしている。網形成計画の評価については、PDCAの記載があるが、各事業の評価については記載がない。各事業の評価についてもPDCAサイクルを構築し改善を図っていくという認識で良いか。

事務局

各計画事業の評価についても、PDCAサイクルを構築し改善を行っていく。
また、わかりやすい記載になるよう注釈等の記載を検討する。

委員

31頁課題1の中で、「公共交通ネットワークを構築が課題である」との記載について、文言がおかしいため変更した方が良い。また、個別課題の⑪が標記されていないのはなぜか。

<裏面へ>

事務局

課題1については、「ネットワークを構築していくことが課題である。」に記載を変更する。
また個別課題⑩は、「タクシーの有効活用」であり、記載が消えてしまっているため、訂正する。

委員

昨今、自動車の自動運転に向けた実証実験等の取組が盛んに行われている。本計画期間は、5年間であり、期間内に、自動運転の車が車道を走るということは考えられないが、本市としても自動運転の実証実験や、その他の新技術の活用等を取り入れていく旨を計画に記載しないか。

会長

自動車の自動運転に関する実証実験については、全国的に行われている。長久手市はこれまで、実証実験等を行ったことはあるか。

事務局

平成28年度に、モリコロパーク（公園西駅）から福祉の家までの区間で実証実験を行った。昨年度については、条件が合わず申請することができなかった。国や県からの情報を収集しながら、条件に合えば実証実験について申請していきたい。

会長

実証実験や申請等を行っているのであれば、取組に記載してはどうか。

委員

自動運転については、国としても、法律が整備されておらず、旅客運送として、位置づけがまだできていない状況である。場合によっては法に触れる可能性も生じることが考えられるため、具体的に記載する事は望ましくない。

記載するのであれば、「将来に向けて検討を行う」程度に収めたほうが良い。

会長

実証実験等については記載が難しいということであった。その他にも、IoTやICTでアプリと連携し、インセンティブの付与等を行っているケースもある。新技術の活用についても、記載があっても良いのではないかと思われる。

実証実験等については、慎重に検討し、パブリックコメント後に会議の意見として記載しても良い。

委員

23頁②名古屋市以外の周辺市でよく行く場所や施設の利用目的（市外）について、文章がわかりにくい。

事務局

記載を変更する。

会長

各委員に指摘いただいた事項を修正し、本計画（案）をパブリックコメントにかけることとしてよろしいか。

（異議なし）

承認いただいたということで進めていく。

また、パブリックコメントの実施スケジュールについて、事務局の方から説明をお願いします。

（パブリックコメントについて事務局より説明）

（2）平成30年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価（1次評価）
について（資料2-1及び資料2-2に基づき事務局より説明）

会長

本市においては、生活交通確保維持改善計画を策定し、「フィーダー系統」、「計画策定に係る事業」の2つについて国から補助金をいただいている。補助金をもらうにあたり、本会議にて承認後、二次評価を受けることとなる。内容について承認することとしてよろしいか。

（異議なし）

承認いただいたということで進めていく。

（3）Nーバスダイヤ改正について
（資料3に基づき安心安全課より説明）

委員

古戦場駅周辺では、今でも、土日を中心に渋滞が発生している。渋滞の状況に応じて調整を行って欲しい。

<裏面へ>

安心安全課

事業者とは密に連絡を取りながら、次回の路線再編時に対応していきたい。

委員

今回のダイヤ変更では、渋滞等の影響による乗務員の乗務時間の遵守のため、協力いただき感謝する。今後も、担当課と情報交換を図りながら法令遵守等の対応をしていきたい。

会長

古戦場公園駅周辺では、土日に渋滞が多いということだが、土日ダイヤは設けないのか。

安心安全課

今回のダイヤ改正では土日ダイヤの設定は見送った。今後の状況を見て、Nーバスの見直しの際に検討していく。

委員

ダイヤの見直しだけではなく道路等の環境整備についても、検討をお願いしたい。特に市役所南東の交差点では、横断者が多く、矢印信号もないため、バスが右折できないことがよくある。

安心安全課

いただいた要望については、愛知警察署と相談し慎重に検討していきたい。

委員

右折信号については、要望が多いが、整備のためには右折帯の整備や、信号のサイクル、直進車線の渋滞状況等様々な状況を考慮し検討していく必要がある。

会長

状況に鑑み、要望していただきたい。

提案いただいたダイヤ改正案で承認いただいたということによろしいか。

(異議なし)

承認いただいたということで進めていく。

2. 報 告

(1) 定額乗合タクシー実証実験結果について（資料4-1及び4-2に基づき長寿課により説明）

委員

網形成計画では、再来年度に本格運行をするということだが、バスの利用者に影響がでないとは限らない。運行目的については、バス停まで移動が困難な方を対象としているとのことだが、これは福祉運送の範疇ではないか。

また、今回の実証実験の内容を見ると、タクシーと全く同じである。

本格運行に向けては、慎重に検討していただきたい。

長寿課

実証実験について、検証ができていないため、今年度中に検証結果をまとめていきたい。

会長

アンケート結果では、「乗合タクシーを利用しなかった場合にどの公共交通を利用しますか」との問いに、Nーバスと回答している人が多いという結果となっている。これは完全に競合していると言える。

家族に送迎してもらおう等の回答を~~を~~している方については、この乗合タクシーが必要であった方であったということが言える。

目的がどれだけ達成できたかということ~~を~~を検証していく必要がある。

委員

今回の実証実験結果では、赤あったかあど保有者のうち3%しか利用していないことから、Nーバスの利用に困難だと感じている方が少ないのではないかとと思われる。一方で、乗合率は運行回数の4%であり、事実上の格安タクシーであったと言える。

再度、公共交通としての位置づけ等をしっかり考えていく必要がある。

会長

今の段階では公共交通ではないとの認識で良いか。

事務局

福祉色の強い公共交通と位置づけている。

今後、実証実験結果を踏まえ検証を進めていく。

<裏面へ>

(2) 公共交通応援隊活動報告について（資料5に基づき事務局より説明）

委員

参加者が少なく、ご協力いただいた関係者の方々に申し訳ない。

会長

今までに比べると参加者が少ないという結果ではあったが、地道に活動を続けていく必要がある。今後も引き続きお願いしたい。

3. その他

委員

市内を南北に繋ぐ愛知医科大学病院線（南北線）については、非常に重要な路線ではあるが、利用者数が少なく、非常に厳しい状況である。各関係者等と協力し、路線のあり方等を考えていきたいと考えている。（吉岡委員より報告）

事務局

今回ご指摘いただいた点について、確認・修正を行い、会長に確認いただいた後、1月7日からパブリックコメントを開催する。

次回は、パブリックコメントの結果をまとめた計画（案）をお示しし、承認をいただく予定である。

以上で第46回地域公共交通会議を終了とする。

以上